

科目区分	専門教育科目	科目名	臨床栄養学Ⅰ（病態の理論）		科目コード	21S530	担当者	古賀 克彦			
対象学生	生活創造学科 栄養士コース 1年生		学期区分	後期	単位数	2	担当形態	単独			
			授業形態	講義							
科目			施行規則に定める科目区分又は事項等			卒業要件	必修				
						免許・資格要件	栄養士必修				
科目の主題						学修成果との関連（大◎、中○、小△）					
学生が各種疾病と食事療法との関係を理解することを目的とする						1. 「 良心 」 誠実な人柄と 人間力	2. 「 創造 」 高度な知性と 創造力	3. 「 実践 」 明確な意思と 実践力			
科目の到達目標						① 誠実性・真摯性	② 多様性・協働性	③ 知識・技能	④ 表現力・創造力	⑤ 実行力・自立性	⑥ 就業力・貢献力
1.	各種疾患の定義、病因、症状、診断方法、治療方法について理解する										
2.	各種疾患の栄養上の問題点と食事療法の関係について理解する										
3.											
4.								◎	○	○	
5.						成績評価の方法と割合					
授業方法						定期試験（100%）					
講義形式											
課題等への対応						授業外学修時間					
課題の提出はないが、オフィスアワー等の時間に質問への対応を行う。 定期試験の結果については、追再試験期間中に対応する。						毎回30～60分程度					
回数	授業計画					学習課題（予習・復習）					
第1回	消化器疾患 胃炎（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					シラバスを読み、科目の概要を確認する。また、教科書の胃炎の部分であらかじめ読み予習を行っておく。					
第2回	消化器疾患 胃・十二指腸潰瘍（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					教科書を用い胃・十二指腸潰瘍についてと消化器の解剖生理について予め予習を行っておく。					
第3回	消化器疾患 下痢・便秘（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					教科書を用い下痢・便秘についてあらかじめ予習を行っておく。					
第4回	消化器疾患 炎症性腸疾患（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					教科書を用い炎症性腸疾患（クローン病および潰瘍性大腸炎）について予め予習を行っておく。					
第5回	消化器疾患 胃癌・大腸癌（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					教科書を用い胃癌・大腸癌についてあらかじめ予習を行っておく。					
第6回	肝・胆・膵 肝炎①（疾患の定義、分類、病因、症状、診断）					教科書を用い肝炎についてと肝臓の解剖生理について予め予習を行っておく。					
第7回	肝・胆・膵 肝炎②（疾患の治療法と食事療法）					教科書を用い肝炎についてあらかじめ予習を行っておく。					
第8回	肝・胆・膵 肝硬変症（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					教科書を用い肝硬変症についてあらかじめ予習を行っておく。					
第9回	肝・胆・膵 肝臓・脂肪肝（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					教科書を用い肝臓・脂肪肝についてあらかじめ予習を行っておく。					
第10回	肝・胆・膵 胆石・胆嚢・膵臓疾患（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					教科書を用い胆嚢・膵臓疾患についてと、胆嚢・膵臓の解剖生理について予め予習を行っておく。					
第11回	内分泌・代謝 脂質異常症①（疾患の定義、分類、病因、症状、診断）					生化学の脂肪の代謝の部分と、教科書を用い脂質異常症についてと予め予習を行っておく。					
第12回	内分泌・代謝 脂質異常症②（疾患の治療法と食事療法）					教科書を用い脂質異常症についてあらかじめ予習を行っておく。					
第13回	内分泌・代謝 糖尿病①（疾患の定義、分類、病因、）					教科書を用い糖尿病についてあらかじめ予習を行っておく。					
第14回	内分泌・代謝 糖尿病②（疾患の症状、診断、合併症、疾患の治療法と食事療法）					教科書を用い糖尿病についてあらかじめ予習を行っておく。					
第15回	内分泌・代謝 痛風・甲状腺疾患（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					教科書を用い痛風・甲状腺疾患についてあらかじめ予習を行っておく。					
試験	定期試験を実施する										
教科書	エッセンシャル臨床栄養学 佐藤和人著 医歯薬出版株式会社				受講生への メッセージ	栄養士として働いていくうえで、治療食を介して患者さんの治療や、喫食者の健康増進に係わる事が出来る事は大きなやりがいとなります。難しい内容も多いですが、社会に出ると必ず必要となります。頑張ってください。					
参考書等	なし										